

第24回豊橋市小中高特連携教育推進協議会議事要録

令和元年6月19日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 24 回 豊橋市小中高特連携教育推進協議会

日時	令和元年 6 月 19 日（水）午後 2 時 00 分～午後 3 時 40 分
場所	男女共同参画センター 第 1 ～ 3 研修室
構成員	山西正泰 教育長 高橋豊彦 教育委員 渡辺嘉郎 教育委員 内浦有美 教育委員 中島美奈子 教育委員 高畑尚弘 時習館高校長 高橋正俊 豊橋東高教務副主任 平松直哉 豊丘高校長 森田恭弘 豊橋南高教頭 冠者貴樹 豊橋西高教諭 加藤勝義 豊橋工業高教頭 小野田善樹 豊橋商業高教頭 栗名廉 豊橋聾学校長 天野和彦 豊橋特別支援学校部主事 山川恭子 くすのき特別支援学校長 宮崎正道 南部中学校長 杉浦均 新川小学校長 荻山匡仁 石巻中学校長 岩瀬佐知子 二川小学校長 山内潤次 豊岡中学校長 大林利光 教育部長 駒木正清 教育監 （欠席者：丸崎恵子 豊橋高校長）
ワザバ-	木田剛 東三河教育事務所指導課長 小野田朋恵 東三河教育事務所指導主事 渡邊宏光 田原市教育委員会学校教育課長 尾崎佳孝 蒲郡市教育委員会課長補佐 原美弥子 豊川市教育委員会指導主事 亀甲真史 新城市教育委員会指導主事
事務局	角野洋子 教育政策課長 木下智弘 学校教育課長 他 （全 7 名）

議 事 日 程

- 1 本協議会の概要説明

- 2 副会長の選任

- 3 東三河小中高特連携教育推進協議会の進捗説明

- 4 今年度の各分科会活動の方向性
 - (1) 英語教育分科会
 - (2) 理科学教育分科会
 - (3) 特別支援教育分科会
 - (4) 言語能力分科会

- 5 その他
 - (1) 今後の協議会並びに分科会の進め方について

(高橋会長)

本日は、ご多用の中、ご出席をいただきありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今から、「第24回豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を開催いたします。私は、本協議会の会長を務めさせていただきます、教育委員の高橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本協議会に初めて参加する委員の方や代理出席の方もおられますが、お手元の資料をもって紹介に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

さて、本会は平成20年度末に発足しました。平成25年度からは、東三河他都市の教育委員会や教育事務所の方々にもオブザーバーとして参加していただいております。本日は、東三河教育事務所、田原市教育委員会、蒲郡市教育委員会、豊川市教育委員会、新城市教育委員会の先生方にご出席をいただいております。

なお、連携教育推進の方向性が議論されますこの協議会終了後には、分科会の開催が予定されています。

それでは、次第にしたがって、協議会を進めてまいります。はじめに、「1 本協議会について」、山西教育長から説明をさせていただきます。

(山西教育長)

昨年度まで委員を経験された方々は、本協議会が立ち上がった経緯等をご承知のことと思いますが、今年度から新たに委員になられた方々が、33名いるということですので、本協議会について説明をさせていただきます。

本協議会が発足したのは平成21年になります。発足までの経緯としましては、本市教育委員会が策定した教育振興基本計画において、18歳までの子どもの育ちを基軸として、政策等を体系化していますが、どうしても義務教育を卒業したところで、そのつながりが途切れてしまうという溝が存在していました。そこで、一人一人の子どもの成長を願った時には、教育環境整備を継続させる必要があるわけですが、義務教育が終了した段階でつながりが途切れてしまうというのはある意味仕方のないことで、小中学校と県立高等学校等では設置者が違うという大きな問題があると共に、人事制度も違うということがあります。そのため、連携が難しかったということは否めないことであります。しかし、本市で生まれた子どもたちが、本市の小中学校に通って、そのほとんどが本市あるいは本市周辺の県立高等学校等に進学していくということを考えたときに、小中学校の連携が図られているので、その延長線上にある高等学校等と連携が図られないかと前教育長が考え、県立高等学校等の校長先生とも協議を重ね、平成21年度に本協議会が設置されたという経緯であります。

メンバーとしましては、当時は旧教育委員会制度でしたので、教育委員長が会長を務め、小中学校長会長、高等学校代表校長が副会長に就任するということで、各分科会に10名程度の委員をおき、「教員の相互交流分科会」「英語教育分科会」「理科学教育分科会」「特別支援教育分科会」の4分科会でスタートしました。様々な活動を通して連携を進めましたが、平成26年度に「教員の相互交流分科会」を解散して、「情報モラル教育分科会」に変更をしました。「情報モラル教育分科会」については、一定の成果を得たため、平成27年度末に解散をし、平成28～30年度は3分科会で活動をしてまいりました。

昨年度、豊橋東高等学校藤原校長から、時代にあった分科会を立ち上げていく必要があるとご意見をいただき、今年度から「言語能力分科会」を立ち上げることになりました。この

分科会の実践拠点校として豊橋南高等学校をお願いしております。

また、特別支援学校も入っていただいているということで、平成29年度の協議会から、小中高連携教育推進協議会を小中高特連携教育推進協議会と名称変更させていただきました。

更に、県教育委員会も東三河教育事務所に特化して小中高特連携教育推進協議会を予算化し、「キャリアフレッシュセミナー」等を計画していただくなど、広がりを見せています。

各分科会においては、目的達成のために、関係校同士の情報共有、教員の相互交流、調査研究を推進していただき、本協議会の目的である「教育活動の連携と系統化を図り、子どもたちの生きる力を育成」につながるように、それぞれの立場でお力添えをお願いしたいと思います。本日はよろしく申し上げます。

(高橋会長)

次に、「2 副会長の選任」に移ります。高等学校の先生方から1名、小中学校の先生方から1名を選任させていただきます。まず、高等学校の先生方は、いかがでしょうか。

(豊丘高校 平松校長)

時習館高等学校の高畑校長を推薦します。

(高橋会長)

続いて、小中学校の先生方は、いかがでしょうか。

(新川小学校 杉浦校長)

豊橋市立小中学校長会の代表をしている南部中学校宮崎校長を推薦します。

(高橋会長)

副会長には、時習館高等学校長の高畑委員、並びに、南部中学校長の宮崎委員にお願いしたいと思いますが、ご賛同いただけますでしょうか。

【全員より拍手】

異議なしと認め、高畑委員と宮崎委員に副会長をお務めいただきます。それでは、副会長席へのご移動をお願いいたします。なお、会長の職務代理者については、本会の規約「第5条第7号」により、副会長の中から、私が指名をさせていただくことになっていますので、高畑委員をお願いをしますので、みなさまご承知おきください。

(高橋会長)

続きまして、次第の3「東三河小中高特連携教育推進協議会」の進捗状況等について、東三河教育事務所からご説明をいただきます。

(東三河教育事務所 木田指導課長)

東三河教育事務所では、平成28年度から東三河小中高特連携教育推進協議会を立ち上げました。構成員は、東三河8市町村の教育長、教育委員代表、県立高等学校代表校長、特別支援学校代表校長、三河小中学校長会代表校長、東三河教育事務所長、東三河教育事務所新城設楽支所長です。昨年度は、本協議会が2年目になりまして、大きく4つの事業を展開して

まいりました。主な事業の概要につきまして、別紙資料をもとに東三河教育事務所指導主事小野田が説明をします。

(東三河教育事務所 小野田指導主事)

資料ですが、1枚目が昨年度の成果、2枚目が今年度の計画になります。まず、「キャリアフレッシュセミナー」について説明します。東三河8市町村の中学1年生に東三河の高等学校の学科紹介と高校生との交流・語り合いを通して、将来の夢や進路を考える機会にしてみようために開催しました。当日は、生徒約430名、保護者約140名の参加を得て、大変盛会となりました。今年度につきましては、昨年同様、愛知大学を会場に8月24日に開催します。昨年度は、公立高等学校10校に加え、私立高等学校2校にも参加いただきました。今年度も、12校10学科の高等学校に参加いただき開催します。昨年度同様、保護者のみなさまもご参観いただけますのでぜひご紹介ください。

人事交流連絡会では、学校種間を超え、実際に交流を経験した教諭を招聘し、体験・成果等を各校種の管理職のみなさまに向けて語っていただく場を設けました。今年度は、交流者3名の報告に加え、参加者との意見交流の時間を確保して実施することを計画しています。過去2年間は、管理者向けとして実施しましたが、今年度は一般教諭へ裾野を広げ、異校種への関心を広げたり、児童生徒のキャリア教育に生かしたりすることができるように実施計画を練っているところです。

最後に、実業高校における初任者研修についてです。これからの教育は、キャリア教育や進路指導等の幅広い力が求められるということで、昨年度、三谷水産高等学校、新城高等学校の協力を得て実施することができました。今年度、東三河3市の初任者は渥美農業高等学校、新城管内は田口高等学校で研修を行わせていただきます。より充実した事業になるよう進めてまいります。

(高橋会長)

続きまして、「愛知の教育ビジョン2020」が来年に当たりますが、この次の企画がどれぐらいのスパンで行われるかなど、何か意見はありますか。

(東三河教育事務所 木田指導課長)

愛知県教育委員会では、概ね5年間をスパンとして、教育振興計画を立て、それに基づいて県内各所の教育活動を振興しています。「愛知の教育ビジョン2020」は、教育振興計画としては、第三次に入っています。今後の計画につきましては、実態等を把握しながら、再検討を重ねていると聞いております。令和2年度からは、小学校で新学習指導要領が完全実施されるということで、新たな教育観、愛知の目指す人間像等を踏まえながら改訂を進めていると聞いております。

(高橋会長)

続きまして、各分科会の今年度の研究推進の方向性等についてお話をいただきたいと思います。英語教育、理科学教育、特別支援教育、最後に新設の言語能力の順番でお願いします。それでは、最初に英語教育分科会について、二川小学校長の岩瀬委員から説明していただきます。

(二川小学校 岩瀬校長)

活動方針としましては、英語教育における子どもの学びの連続性から、目指す英語ユーザーの姿を共有しながら、次の3点を柱として活動を進めていきたいと考えています。

1つ目は、異校種間の一層の連携推進です。授業公開や研究協議会を通じた相互交流の充実をこれまで以上に図り、子どもたちにとって、円滑な接続が可能となる手立てを工夫していきます。今年度は岩西小学校、本郷中学校、豊橋商業高等学校にご協力いただき、授業研究会に参加して意見交流を行っていきます。また、教員だけではなく、児童、生徒間の交流も継続していきたいと思えます。昨年度もイングリッシュキャンプに豊橋東高等学校の生徒が参加してくださり、中高の連携が図られました。前委員長の佐藤校長からは、Can-Do リストの共有化が課題であるというお話を頂いておりますので、この連携推進にあたりましては、今後、Can-Do リストを整備していくことを1つの課題と考えております。

2つ目は意識調査の実施と分析です。先ほどお話がありましたように、新学習指導要領の小学校完全実施、中学校・高等学校も移行期になります。それぞれの校種の現状を把握し、課題を明らかにして、中学校・高等学校の授業改革にも取り組んでいきたいと考えております。

最後に、情報の共有化です。小中高特における授業の取り組みの情報発信に努めて、異校種の教育内容の共有化を図りたいと考えます。今まで同様、英語部報などを活用して、情報発信を継続していきたいと考えております。

以上3つの柱に向けて、4回から5回の分科会を開催し、取り組んでいきたいと思えます。

(高橋会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

(二川小学校 岩瀬校長)

豊橋東高等学校の生徒が参加してくれたイングリッシュキャンプは、中学生を対象とした英語研修になりますが、そこに学習のモデルとして豊橋東高等学校の国際コースの生徒が、デモンストレーションをしてくれたり、実際にイングリッシュアクティビティを中心となって進めてくれたり、発表する時のデモンストレーションの仕方を中学生に指導してくれたりして、ALTと中学生を結ぶような役割で、各グループに数名ずつ入って、一緒に活動しながらサポートしていただきました。

(新川小学校 杉浦校長)

いくつかの小学校で英会話の授業を見てきましたが、それぞれの小学校で様々な課題があり、違いがあると感じました。子ども達が大人になる頃の社会では、英語はとても大事になると思えます。国内だけではなく、国外に視野を向けて活動することが増えていくので、子ども達が英語を好きになっていけるような連携も進めていけると良いと思えます。

(南部中学校 宮崎校長)

豊橋市は平成17年に英語教育推進特区をとって、その後教育特例校に移行して以降、小学校3年生から英語を学んできましたが、それを続けてきた子ども達を見ると、やはり外国人、

英語の授業で言うとALTに対する態度が全く違うと思います。同時に、小学校が上手に英語を好きにさせてくれているので、中学校に入学した子ども達は、基本的に英語学習が好きだという子が8割近くいます。そういった成果は充分でていると思います。これから教科化になって、文字が入ってくると勉強の面が大きくなっていくので、そこをどうしていくのが、大きな連携のポイントだと思っております。成果はこれからだと思っています。

(豊橋聾学校 栗名校長)

聾学校でも、小学校に準じて教科書で教えるのですが、最初に日本語を教えて、その上で英語を教えていくという流れになるのですが、英語の教員が少なく、小学部の先生方が英語を教えられるかどうかという不安が非常に大きいです。そのため、今年から東海地区の聾学校の英語の先生達が、夏休みに集まってこの問題にどう対応するかという話になりました。手話と日本語では少し違うものですから、国語で日本語を教えていき、今度はそれを元に英語を教えます。カタカナで教えるのかそれとも文法を最初から教えるのかということで苦勞しています。小学校の先生方が、ALTの先生も含めてどのような研修をされているのか、どのような計画を立てているのかを教えてくださいたいです。

(二川小学校 岩瀬校長)

小学校の先生についても、英語が専門の先生は大変少ないので、苦勞しています。しかし、担任が英語の授業をやるということは、常々話をしていますので、担任が全ての授業計画を立てています。現在、5・6年生が教科化に向けての移行期間ということで、「We Can」という文部科学省の教科書と、豊橋市独自の「Sharing Toyohashi」というテキストを使って授業計画を立てています。発音などの指導で困ったときには、スクールアシスタントの先生に入ってもらったり、5・6年生はALTの先生に入ってもらったりして行うというような形で、その役割もシェアリングして行っています。研修については文部科学省のDVDなどもあります。本校でいうと、その研修DVDを見ながらどうやって授業を行っていくかというようなイメージを視覚化するほか、英語研修会に英語主任が行って、実際の場面での指導の仕方を学び、それを校内研修で全職員に共有するという形を数年間続けています。

(豊橋聾学校 栗名校長)

文部科学省のDVDは使っていきたいと思いました。また、お話を聞いて数か月では上手いかなんかがよくわかりましたので、2年3年かけてじっくりと職員に力をつけていけるように働きかけていきたいと思います。

(山西教育長)

手話は万国共通ですか。

(豊橋聾学校 栗名校長)

国ごとで全く違います。手本となる英語の授業もないのでこれから考えていく必要があります。

(高橋会長)

続きまして、理科学分科会について時習館高等学校長の高畑委員から説明をしていただきます。

(時習館高等学校 高畑校長)

理科学分科会の平成30年度の取り組みについては、お手元の資料に概略として記載させていただいています。本協議会の目的が小中学校と高等学校との連携ということですので、理科学分科会では、小中学校の教員と、高等学校の教員が様々な形で連携ができればということでも今まで積み上げてきました。

小学校の先生方に対する実験講座では、昨年度は三十数名の小学校の先生方が、参加していただけました。豊丘高等学校、豊橋工業高等学校、時習館高等学校の教諭4名が、それぞれ物理分野、化学分野、生物分野、地学分野の講座を開講して、全ての分野を小学校の先生方に学んでいただくという実験講座を開催しました。今年度も7月下旬での実施を予定していますので、多くの小学校の先生方に是非参加していただきたいと考えています。

昨年度のアンケート結果からいくつかのヒントをいただきました。小学校の理科の実験や授業は高校まで進学する上での大きな土台となりますので、小学校の先生方のための実験講座は、今後も開催したいと思っています。その他、小中学校の授業研究会に高等学校の教員も参加させていただいて、高等学校の授業につながる研修をしていきたいと考えています。また、高等学校の授業を小中学校の先生方に参観していただいて、高等学校ではどのような授業をしているのかを知っていただく機会もつくって来ました。昨年度は豊橋工業高等学校で開催しましたが、今年度は豊橋西高等学校を会場に実施予定です。高等学校の教員も、小中学校の先生方もお忙しいですが、時間をとっていただいて、有意義な研修の場にしていきたいと考えています。高等学校の授業公開の後では、様々な情報交換をしています。小中学校の教員と高等学校の教員が様々な場面で相談できる環境をつくっていききたいと考えています。

今年度も昨年度に実施したことを踏襲していきたいと考えています。昨年度の課題としては、それぞれの会への参加人数がやや少なかったことです。今年度は、より多くの先生方に参加していただきたいと思っています。

(高橋会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、何かご質問・ご意見等はございませんか。

(豊橋工業高等学校 加藤教頭)

豊橋工業高等学校を会場として、昨年度とその前年も授業公開と情報交換会を実施しました。小中学校の先生方から、実験器具や装置についてのアイデアはあるが、自分たちでは作れないので、実現できないかという質問をよくいただきます。豊橋工業高等学校であれば多くの物が実現できるかと思えますので、是非ご相談いただければと考えております。また、装置の形を少し変えたい等については、豊橋工業高等学校に足を運んでいただければ、一瞬でできてしまう物もあります。ご相談いただければすぐ解決できることがあるかと思えますので、是非ご利用下さい。

(時習館高等学校 高畑校長)

昨年度は、小学校の教材を豊橋工業高等学校の教員のノウハウで作ることができました。小中学校の教員からの要望を形にできるノウハウを高等学校、特に豊橋工業高等学校の教員の方々も持っていますので、相談をしていただければ、それこそ一瞬でできてしまう物もあるかもしれません。そのようなことができるのが本協議会の良いところだと思いますので、今後も活用してい

ただければと思います。高等学校の教員も実験を行うのに、どのような実験にするべきか、日々アイデアを練っています。様々な実験ノウハウをアドバイスできると思います。

(渡辺教育委員)

命の教育は理科で行われるのか、保健体育で行われるのか、道徳で行われるのかわかりませんが、私は、生物として理科の分野になるのではないかと考えています。そこで、命の尊厳について、何かしらの形で連続して教えていくことができないかということです。最近、命に対する人の尊厳が失われつつある時代だと思います。命の尊厳について小中学校、高等学校で連携して子ども達に伝えられないものかと考えます。命は大事なものですので、命の教育を一貫して子ども達に伝えることが重要であると思います。豊橋の子ども達が、命や生物の尊厳である命の教育をしっかりと受けられるようなシステムを作っていくことは、とても大事なことなのではないかと思っています。

(高橋会長)

厚生労働省の発表で10代の死亡原因のトップが自死でした。年々減少はしているのですが、命の教育を理科で扱うのか難しい問題ですが、いかがでしょうか。

(時習館高校 高畑校長)

難しい話ではありますが、それを体系的にやることはとても大事なことであります。学校においては理科や保健の授業など様々な場面でそれに関わる話、又はそれに関わる意識をもって教員が生徒に話をすることは、大事であると考えます。例えば生物の授業では、観察・実験の時に生物の材料を使うことがあります。その折には、多くの生物の教員は一言話をしてその実験に入ります。教科以外では、教育相談や心のケアのことにも関わってきますし、学校全体の教員の意識として、命を大事にするということを職員会議などで話題にすることで、それが生徒に伝わっていくのではないかと考えています。家庭でも学校でも、よりアンテナを高くして生徒たちの表情や動きに気をつけながら見守っていきたいと思います。

(渡辺教育委員)

小学校の理科の教科書を読ませていただきましたが、教科書の中に人間の体のこと、病気のこと、命のことがたくさん書いてあります。それだけでなく、病気から身を守る術のことも書いてあります。私は医者をしていますが、日頃臨床をしていて残念に思うのは、こういう病気になってしまったのはその理由を理解せず、小学校の教科書に書いてあることを守れなくて病気になってしまった子どもがたくさんいるということです。つまり、病気についての知識を小中学校や高等学校で身につけることができれば、自分の命を守る力が身につくはずで、ところが身につけていないのは、しっかり教えられていないのではないかという思いをもったということです。

(山西教育長)

理科学分科会が、小中高連携として各校種の理科授業を参観しているので、1つの視点として小中学校や高等学校で命の授業を行うなど、授業の狙いや目的を定めればこの問題はある程度つながるのではないかと考えます。

(高橋会長)

続きまして、特別支援教育分科会の報告をくすのき特別支援学校長の山川委員から説明をしていただきます。

(くすのき特別支援学校 山川校長)

特別支援教育分科会では、個別の支援計画に関わる幼保子ども園の先生方にも参加して頂いております。私は、豊橋市内の幼保子ども園から小学校、中学校、高等学校に進学する特別な支援が必要な子ども達への支援を連携して行うことができる方策を具体的に考えていくのが本分科会に与えられた目的だと考えています。

昨年度は、個別の教育支援計画の策定、活用、引き継ぎの話を進めてきました。中学校から高等学校への個別の教育支援計画の引き継ぎについて、平成 29 年度から話し合いを重ね、昨年度に個別の教育支援計画の引き継ぎに関する文書を豊橋市教育委員会から発出しました。特別支援学級、通級指導教室の生徒について、中学校から高等学校への個別の教育支援計画の引き継ぎを進めることができました。

個別の教育支援計画の作成にあたっては、保護者の理解を得られないと作れないということがあり、大きな問題となっています。そこで、平成 24 年度に作られたリーフレットを更に多くの保護者の方に見やすい形にするということで、A 4 両面 1 枚で「個別の教育支援計画でのびのびと」というリーフレットを作成しました。このリーフレットについては、より多くの保護者の方に見ていただきたいと考えています。個別の支援を必要としている子どもの保護者にだけ配付するのではなく、多くの保護者に配付していただき、支援が必要だと感じた時に気軽に学校に相談できる状況にしたいと考えています。

昨年度は、それらに関するアンケートも実施しました。その結果も受けまして、今年度の取り組みについて話をさせていただきます。今年度ですが、中学校から高等学校への個別の教育支援計画の引き継ぎについて、通常学級についても進めていきたいと思っています。また、幼保子ども園での個別の支援計画の作成がまだ進んでいないことがアンケートからもわかりました。現在、「個別の教育支援計画の活用と引き継ぎの手引き」に載っているものは、ページ数も多く、個別に作るのは大変なため、幼保子ども園で活用できるような教育支援計画の様式を考えていきたいと思っています。今年度からは保育課の職員にも参加していただき、進めていきたいと考えています。

(高橋会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、ご質問・ご意見はございませんか。

(中島教育委員)

幼保子ども園では、支援が必要な子どもと健常な子どもが、教室が分けられているわけではなく大変だとは思いますが、支援が必要な子どもと健常な子どものお互いの交流によって、両者の育ちの改善につながると思います。支援が必要な子どもに対する教員の声かけを他の子ども達が聞くことで、健常な子ども達も同じように支援が必要な子どもに関わろうとする姿がみられます。連携のできるベースはできていると思いますので、これからしっかりと連携していただきたいと思っています。

(渡辺教育委員)

医療介護や在宅訪問診療では電子連絡帳システムが使われています。連携をとるツールという点では、現在個別の支援計画に使われている紙媒体に対し、電子媒体の電子連絡帳システムを導入することによって、より良いツールになるかと思います。こういったものを活用できないかということも考えていただければと思います。

(豊丘高等学校 平松校長)

どの学校にも支援が必要な生徒がいます。最近では子どもへの虐待を保護者が隠してしまうこともあります。高等学校に入学した生徒を見ていても、支援が必要と思われる生徒もいます。そういった生徒の保護者の中には、「うちの子はそうじゃない」と拒絶し、受け入れず理解もしようとしない方もいます。いちばん辛い思いをするのは生徒であり、学校生活を送りにくくなってしまいうという現状があります。そのため、どのように保護者の方にアプローチすべきなのかを常々考えることがあります。小学校、中学校でもそれぞれアプローチをしているとは思いますが、うまくつながっていきません。そういった家庭の場合、進学先の学校に情報を伝えることを保護者は拒否をすることが多いため、そういったところをどのように改善できるのか、また、個別の教育支援計画の引き継ぎによって情報の共有ができますが、そこから漏れてしまった生徒をどうやったらフォローできるのかが心配です。

(豊橋特別支援学校 天野部主事)

特別支援学校にとっては、個別の教育支援計画の作成や様々な配慮について保護者と相談して進めることは普通のことになります。本協議会に数年参加させていただいて常に話題になるのが、小中学校では、必要にも関わらず保護者に受け入れてもらえないということです。しかし、本協議会に関係している先生方が一生懸命取り組んでいることが、個別の教育支援計画の意義や子ども達のためになるということが徐々に伝わるにつながっていると感じます。時間がかかるかと思いますが、今の取り組みを進めていくことが大切だと感じます。

(豊橋聾学校 栗名校長)

特別支援学校では、虐待等について以前は担任が奔走していましたが、現在では相談支援という制度がありますので、相談支援員が家庭や行政の担当者、児童相談所の職員などと連携をとってくれます。そのため、教育支援計画の中に、担当者の名前が列挙されてきます。担任は毎年替わりますが、様々な担当者とのケース会議は学校で行っており、家庭の様子で変化があったり、本人の体に変化があったりした時には、すぐに連絡がくるようになっています。ケース会議でも教育支援計画は大変役立っています。県立の特別支援学校では、拠点校にソーシャルスクールワーカーも在籍していますので、連絡をすると家庭の状況や福祉とのつながりなどについてアドバイスをしていただけます。こうしたネットワークについては、教育支援計画をもとにしてつくりあげてきました。

(くすのき特別支援学校 山川校長)

保護者の垣根を低くするには、誰もが支援を受ける対象になるという意識を保護者にもっていただくことが大切だと思います。そこで、リーフレットも必要な保護者にだけ配付するのではなく、PTA総会などですべての保護者に配付をすることで、困ったときに相談してくださいとい

う形をとると、特別な支援が必要な子どもが浮かび上がってきやすいと思います。診断があるかないかも大事なことです、診断がなくても学校生活を送る中で支援が必要だと思う子どもに対しては、その子に適した支援ができるようにしていけたらよいと思います。

(高橋会長)

続きまして、今年度から始まる言語能力分科会の報告を豊岡中学校長の山内委員から説明をしていただきます。

(豊岡中学校 山内校長)

言語能力分科会の設立の背景及び方向性について説明させていただきます。言語を通じて物事を知ったり、考えたり、人と関わったりしながら、人間は生きていくものであり、学校現場においても様々な学習活動の基盤になるものが言語能力です。AIが進化してきている時代ですが、活用できるかどうかは言語能力に大きな関わりがあります。人間性に関わることについても、言語能力が大きな意味を占めています。子ども達の現状については、PIISAや全国学力・学習状況調査として資料に掲載してあります。私自身が、授業をしていたとき、他教科の先生方から、「問題が読めていない生徒がいる」「問題が理解できていない生徒がいる」という言葉を聞くたびに、国語教師として頭を痛めていました。こうした現状からも、言語能力育成の重要性を感じていました。目的は、主に国語と総合的な学習の時間に絞って、言語能力の育成の連携を図っていくことです。昨年度在籍していた小学校では、校内研究で言語活動の充実を取り上げながら、国語の授業力向上を図ってきました。このように、言語活動に特化した取り組みを行っている小中学校を取り込みながら、情報を発信できたらと考えています。言語活動の工夫を様々な先生方に理解してもらうことで、国語や総合的な学習の時間の授業がやりやすくなり、それが子ども達に反映していければと考えています。国語においては、「読む」「話す」「書く」「聞く」など様々な活動があります。どの分野に焦点を当てて連携していくのかを様々な先生方から意見をいただいて進めていきたいと考えています。

(高橋会長)

ありがとうございます。ただ今の報告について、ご質問・ご意見はございませんか。

(豊橋南高等学校 森田教頭)

豊橋南高等学校では、昨年度に教育コースが始まりました。教育コースのコンセプトは、高校生の段階で、子ども達、地域の大人、教員、子どもに関わる人など、より多くの人と交流し、体験をさせたい。その後、様々な価値観や体験に基づいて、自分の言葉でまとめ文章にして、論文を書いていきます。最終的には、自分がまとめたものをみんなの前でプレゼンテーションをするという流れを3年間で行っていきます。本校の教育コースでは、教員を育成することだけでなく、これから必要とされる能力を育成するコースとなります。言語能力分科会では、国語や総合的な探究の時間を中心にとありますが、教科・科目が総合的な探究の時間に絡んでいたり、教科横断的な取り組みにも関わったりしています。高等学校では、新たな学びについて進んでいない現状がありますが、本校の教育コースでは、言語能力を高めながら人材育成を行っており、この取り組みが、普通コースにも広がっていけばと考えています。豊橋南高等学校の教育コースで公開授業を行っていただきたいという声がありますので、ありがたく実施させていただき、本校の取り

組みから、言語能力の育成や高等学校での取り組みについてご意見をいただけたらと思います。

(豊橋西高等学校 冠者教諭)

言語能力について、自分の経験をもとに話します。私は数学の教員ですが、数学においても言語能力は重要なもので、基盤になる能力になります。問題の文章が読み取れなければ、図や表を作成することができません。図や表が作成できないために問題を解くことができないということにつながってきます。数学は、計算力というイメージがありますが、論理的な思考がとても重要ですし、その基盤となるのが言語能力になります。言語活動が、小中高で充実していくと様々な教科での力になっていくかと思っています。

(豊橋商業高等学校 小野田教頭)

言語能力につきましては、生徒の自主性・主体性、自ら発信する能力、コミュニケーション能力を育成することが大切になります。本校においても、様々な場面で生徒が自主的に発表する機会を設定しています。小中高特連携についてですが、小中学校はよく連携できていますが、高等学校は遅れをとっていると感じます。本校では、できるだけ小中学校の先生方と様々な場面で連携できるようにしたいと考えています。授業については、小中学校の先生方にも公開しています。今後も小中学校との連携を深めていきたいと考えています。

(石巻中学校 荻山校長)

言語能力ということで、伝えるということは確かに重要ですが、伝えることばかりに意識がいきすぎてしまって、言葉そのものの理解を小中学校でやらないと、伝えても相手にうまく伝わっていないことも危惧されるので、そういったことも意識してやっていく必要があると感じます。特別支援教育の話に戻りますが、個別の教育支援計画をつくって連携することは大切ですが、親の意識が教師の考えと違うこともよくあるため、学校間の連携だけでなく、親や周りの環境のことも考えて進めていかないと難しい面があります。様々な面を意識して小中高特の連携を行っていく必要があると思います。

(新川小学校 杉浦校長)

言語能力は幅広く、様々な教科のベースになるものなので、とても大事なのはわかりますが、言語活動における伝える活動だけでもとても時間がかかります。県校長会で新井紀子教授の講演会を聞きましたが、とても衝撃的な内容で、読解力は小中高と伸びていくわけですがそれほど伸びておらず、読解力が足りないので、教科書を読み解く練習をした方がよいとのことでした。読解力がAIに勝る人間の能力であるということでした。小中高で連携してやっていくのであれば読解力の向上をどうしていくかも考えていけば価値ある取り組みになると考えます。

(内浦教育委員)

言語能力はとても大事だと思います。私は、アイデンティティーやキャリア教育の研究員をしていましたが、その観点からも、言葉は自分自身をつくる、他人との関係性をつくる上でも大事なものです。先程、理科の授業が命を守ることにつながるという話がありましたが、言語能力も同じだと思います。子ども達が、言語能力を得たり育てたりすることによって、自分の将来の可能性を広げることができます。山西教育長から、新たに言語能力分科会をつくると聞いたとき、

とても素晴らしい分科会だと思いました。

(高橋会長)

それでは、「今後の協議会並びに分科会の進め方について」事務局は説明をしてください。

(教育政策課 角野課長)

いろいろなご意見ありがとうございました。この後ですけれども、全体会の意見をふまえて、それぞれの分科会に分かれて、今後の活動等についての議論をお願いします。今後は各分科会で研究を進めていただき、2月開催予定の「小中高特連携教育推進協議会」で、研究活動の成果や課題について、委員長から報告をしていただくことになります。

本日以降、協議会を臨時開催する必要が生じましたら、連絡をさせていただきます。また、各分科会の話し合いが進むなかで、予算等が必要になったときなどは、事務局までご相談いただければと思います。今後ともよろしくをお願いします。

(高橋会長)

ここで、オブザーバーとしてご参加をいただきました、東三河教育事務所、田原市教育委員会、蒲郡市教育委員会、豊川市教育委員会、新城市教育委員会の先生方からご意見を頂戴したいと思います。

(東三河教育事務所 木田指導課長)

4つの分科会について、これまでの取り組みの成果や今後の方向性について議論するのを伺って大変感銘をうけました。特に、特別支援教育については、幼保こども園から小中高へとつないでいくという学びの連続性や系統性の話については、心が惹かれました。当事務所でも、支援が必要な子ども達を早期に発見して支援の手を差し伸べていくことができればと考えて取り組んでいるところです。医療についても様々な意見があって、学びの連続性や系統性だけではなく、福祉・子育て支援・医療等の横の連携の大切さや、育ちを系統的に見ていくことの必要性について勉強させていただきました。

(東三河教育事務所 小野田指導主事)

私は、英語教育と特別支援教育を担当していますので、どちらのことについても様々な取り組みをされていることがよくわかりました。子どもにとって、その子の学びの場としてふさわしい所はどこかを考えながら、支援のあり方について私自身も考えていきたいと思っています。

(田原市教育委員会 渡邊課長)

田原市では、連携型の中高一貫校として福江中学校と福江高等学校が連携を進めています。今日のお話を聞いて、市をあげてのダイナミックな取り組みをされていることが刺激になりました。

(蒲郡市教育委員会 尾崎課長補佐)

小中高特連携教育は非常に難しいと私自身が思っていたのですが、今日のお話を聞いて、ダイナミックな取り組みをされており感銘をうけました。言語能力については、私自身も興味をもっており、この後どのような展開になるのか楽しみにしています。

(豊川市教育委員会 原指導主事)

私は、特別支援教育と不登校対策を担当しています。本日の話の中で出ていた先進的な取り組みと、きめ細かな個々の取り組みの両面において大変勉強になりました。

(新城市教育委員会 亀甲指導主事)

豊橋市のダイナミックな取り組みに感銘をうけました。高等学校も連携しているということで、もっと大胆なことができそうな気がしてきました。言語能力については、新城市教育長が「1に国語、2に国語、34がなくて5にも国語」と言っています。豊橋市の取り組みを新城市にも活かしていければと思います。

(高橋会長)

ありがとうございました。

以上をもちまして、「第24回豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を終了いたします。